

グルタチオン点滴 説明書

<グルタチオンとは>

グルタチオンは、3つのアミノ酸が連なってできた化合物です。

動物や植物、微生物の細胞の中に存在しており、生命を維持するために欠かせない成分です。

健康や美容の維持に役立つとして、グルタチオンは日本薬局方では医薬品として登録されているほか、海外ではサプリメントの素材としても広く知られています。

人間の体内では特に皮膚や肝臓などにグルタチオンが多く含まれていますが、年齢や紫外線の影響によって減少しやすいという特徴があります。

日本では既に40年以上も前からグルタチオンを自家中毒、つわり、妊娠中毒、薬物中毒、慢性肝炎の治療に使用していました。副作用も非常に少ない、安全率の高い医薬品で、薬の副作用の治療に使われることもあるぐらいです。なお、米国では抗がん剤の副作用による指先のしびれ(末梢神経障害)、閉塞性動脈硬化症など様々な疾患の治療に使われています。

<適応症>

パーキンソン病、シスプラチン(抗がん剤)による末梢神経障害

初期の風邪、原因不明の全身倦怠感、化学物質デトックス、重金属デトックス

※パーキンソン病に関しては南フロリダ大学で臨床研究中

<副作用>

もともと人間の体の中に存在する成分の一つのため、副作用出現率は0.1%未満となっています。

発心、食欲不振、悪心、嘔吐、アナフィラキシーショック(血圧低下)

<パーキンソン病とグルタチオン>

グルタチオンは脳にとって最も重要な抗酸化物質の一つであり、脳を様々な有害物質から守る役割を担っています。

パーキンソン病患者の脳内において、この重要な物質であるグルタチオンが減少していることが分かっています。

この事実をもとに、イタリアの Sassari 大学のチームが実際にパーキンソン病患者にグルタチオンを点滴投与したところ症状の著名な改善が認められました。米国においては Dr.Perlmutter がこの治療法を積極的に行い非常に有効な治療であると報告しています。そして、現在では南フロリダ大学において臨床研究が進行中です。

ジェネラルクリニック 福岡